

思いやりの大切さ

小 六

電車には優先席があります。ぼくは、他の乗客が優先席に座っていたので、座ってしまったことがあります。すると、父に、

「そこに座ってはいけません。」
と言われたので、優先席をはなれました。確かに、ぼくが優先席に座ってしまうと、体の不自由な人などが座れなくなってしまうかもしれません。けれども、「他の乗客が座っているなら自分も座っていいのではないのか。」と、思っていました。

家に帰って、優先席について調べてみました。すると、優先席にはマナートラブルが多いということが分かりました。

例えば、ストレスでふみんしようにかかっている二十代女性が、どうしても体調が悪くて仕方ないので、電車の優先席に座ってうつらうつらしていたところ、とつぜんお年寄りの男性からかたをたたかれ、

「何で優先席に座るんだ！ 席をゆずれ。」
と言われたという事例がありました。このことについて母に話してみると、母から、

「健康な高れい者と、体の調子が悪い若者のどちらに席をゆずるの。」

と聞かれました。正しい答えが分かりませんでした。そして、母に、

「もし優先席がたくさん空いていれば、二人とも座れるでしょ。」

と言われました。ぼくは、この一言で、自分はゆずらなければいけない立場に

もかかわらず、優先席に座ってしまったという過ちに気付くことができずした。

「思いやりの心をもちましょう」ぼくは、これまでに、この言葉を何度も耳にしてきました。しかし、そんな「思いやり」はどこにあるのでしょうか。ぼくがたどりついた答えは、ふだんの生活の中です。友達が困っていたら助ける。家族の手伝いをする。このような行いには、その人を思いやる心が働いています。ふだんの生活の中で、人を思いやる心は、周りを笑顔にします。

家で母の手伝いをしていると、必ず母が、
「ありがとう。」
と言ってくれます。この「ありがとう」の中には、感謝や喜びなど、笑顔になるような気持ちがこめられています。そし

て、この「ありがとう」を言われると、とてもよい気分になり、がんばるぞという気持ちになれます。しかし、思いやりの心がなく、
「もつとていねいにやってよ。」
や、

「当たり前でしょ。」
などと言われてしまうと、争いの心が生まれたり、人の心を傷つけたりしてしまいます。

行動でも言葉でも、その中に思いやりがあれば、相手を笑顔にすることができ、自分も笑顔になることができます。生活の中で人を思いやる心はとても大切で、なくてはならないということが分かりました。これからは、周りに気を配り、困っている人がいたら、助けていきます。そして、たくさんの人を笑顔にします。